

中学生が銀杏募金で集めた小さな優しさを熊本へ届けます

平成3年の長崎県雲仙普賢岳噴火の被災地支援を目的に始まった、狛江第三中学校の生徒たちが取り組んでいる「銀杏募金」が今年で26回目を迎えます。

銀杏募金は、校内のイチョウの木から銀杏が落ち始める10月初旬ごろから、生徒と教職員が朝を中心に毎日銀杏を集め、全校生徒が銀杏作業(拾う→剥く→洗う→干す→袋詰め)に携わっています。袋詰めした銀杏は、毎年11月の市民まつりで生徒たちが募金活動を行い募金してくれた方にプレゼントしてきました。

今年集まったお金の使い道について、全校生徒にアンケートした結果、熊本地震の被災地への義援金と決定しました。昨年までは郵便局から送付先に直接振り込んでいましたが、今回は、狛江市の熊本県への災害支援の一環として取り組んでいる「こまえ応援寄附金」を通じて熊本県へ送ることになり、狛江第三中学校の生徒3名が銀杏募金で集まったお金を高橋都彦市長に下記の日程で渡す予定です。

〔日 時〕 平成28年11月30日(水) 午後4時30分～

〔会 場〕 狛江市役所 4階 市長公室

〔参加者〕 狛江市立狛江第三中学校 生徒3名

亀澤 信一(狛江市立狛江第三中学校校長)

高橋 都彦(狛江市長)

〔参 考〕

狛江市の災害支援の一環として取り組んでいる狛江市のふるさと納税「こまえ応援寄附金」の寄附金使用目的を熊本県への災害支援と指定することで熊本県のふるさと納税の代理寄附として扱い、熊本県のふるさと納税にかかる自治体の事務手続きを軽減することになり、全国36都道府県から915件23,799,826円(11月15日現在)の寄附申出を頂いております。

問い合わせ

■銀杏募金に関すること

狛江市立狛江第三中学校校長 亀澤 信一

電話 03-3489-5416

■こまえ応援寄附金に関すること

狛江市市民生活部課税課長 小川 守清

電話 03-3430-1111 内線2265

狛江第三中学校 「銀杏募金」の概要について

- ◇この取組は1991年の長崎県雲仙普賢岳噴火の被災地救援のために始まった。

- ◇当時の生徒会が募金を呼びかけようとしたが、「保護者が稼いだお金を学校に運んで募金するのではなく、他に方法はないか？」という疑問の声が上がったため、検討した結果、正門付近(メモリーロード)のイチョウの木からたくさん落ちてくる銀杏を利用した現在の形になった。

- ◇今年で26年目の取組であるため、現在在籍している生徒の保護者(卒業生)や地域の方の中にも関わったことがある方が多い。

- ◇学校では「ぎんなん募金委員会」を組織しており、今年は生徒18名、教員5名が関わっている。

- ◇イチョウの木から銀杏が落ち始める時期(今年は10月初旬)から、朝を中心に生徒と教職員で毎日銀杏集めをしている。

- ◇10月下旬の1週間には集中して銀杏作業[拾う→剥く→洗う→干す→袋詰め]をしている。この作業には全校生徒が関わる。

- ◇全校作業の際には3年生と1年生が共同で作業する。3年生が1年生に作業内容を教え、伝統を引き継ぐ形をとっている。

- ◇袋詰めした銀杏は、狛江市民まつりの際に募金して下さった市民の皆さんにプレゼントする。

- ◇募金活動で集まったお金の送付先は、毎年全生徒へのアンケートの結果で決定する。今年は熊本地震の被災地への義援金、過去2年間は日本ユニセフ協会へ。